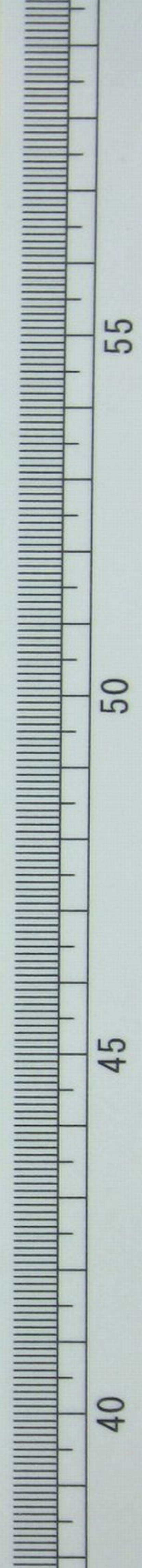
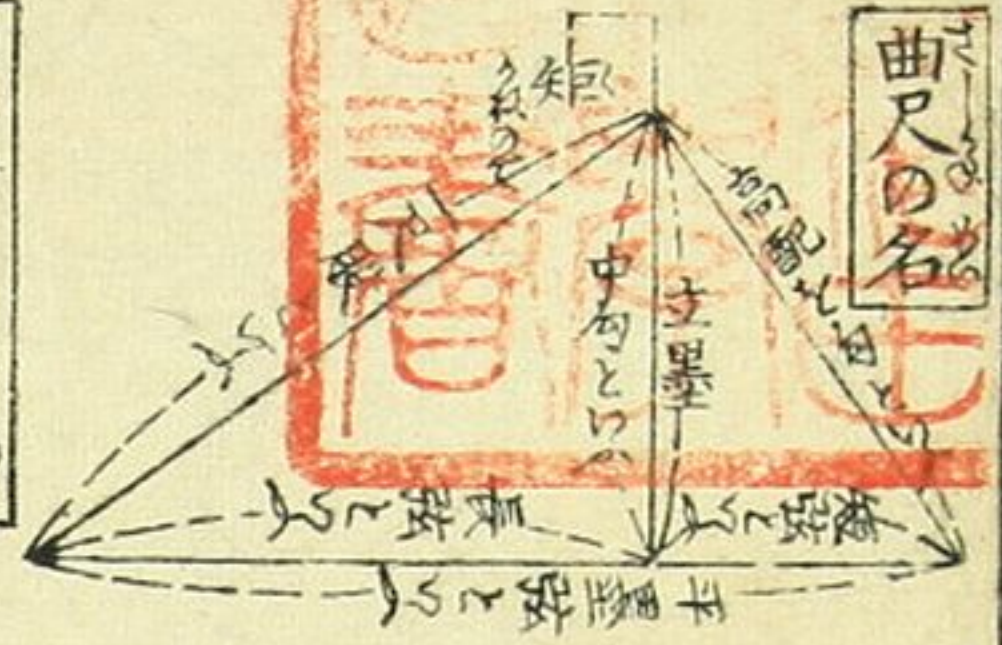


匠家矩術要解
完

小倉文庫
イ 16
919



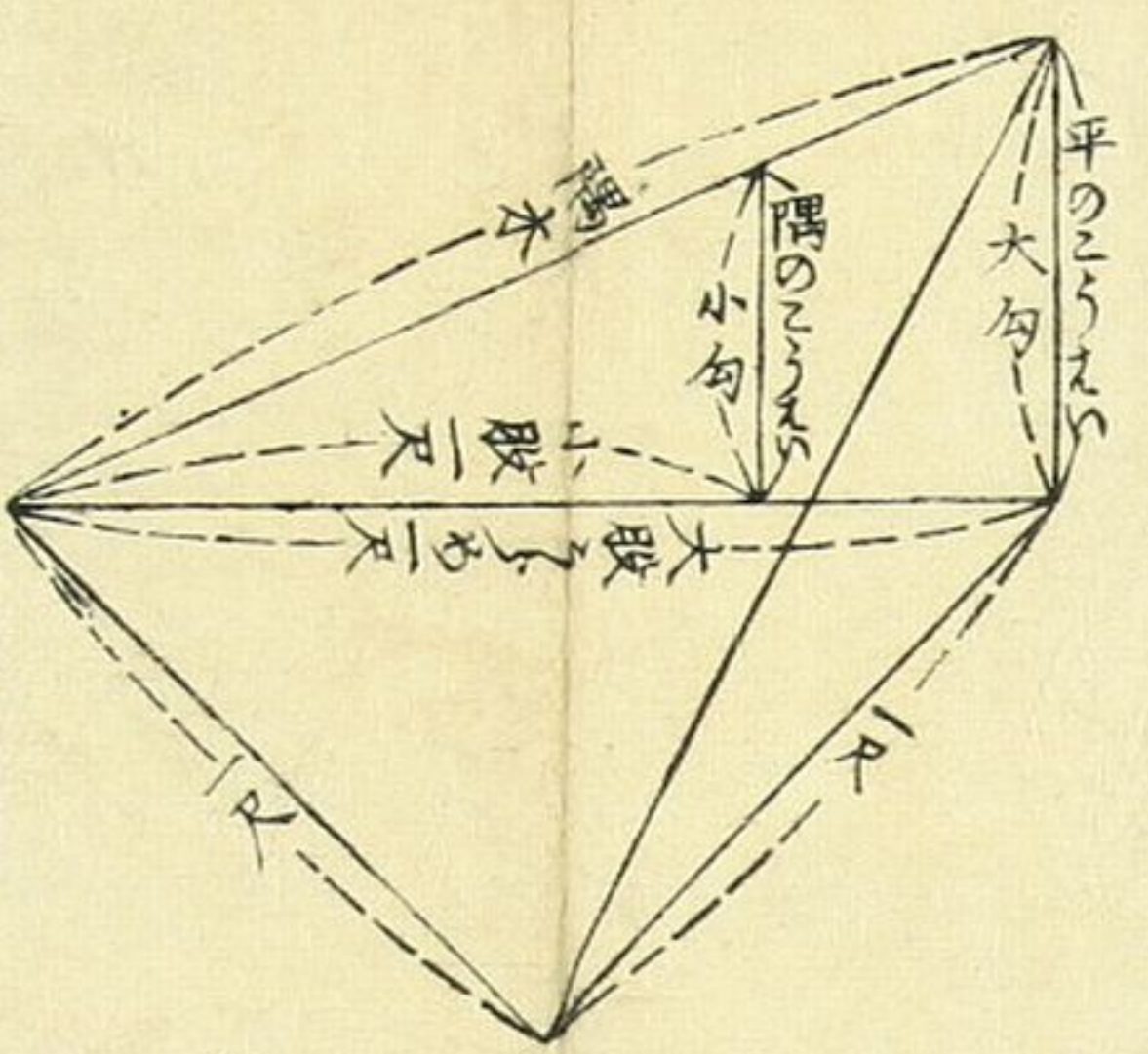
曲尺の裏尺



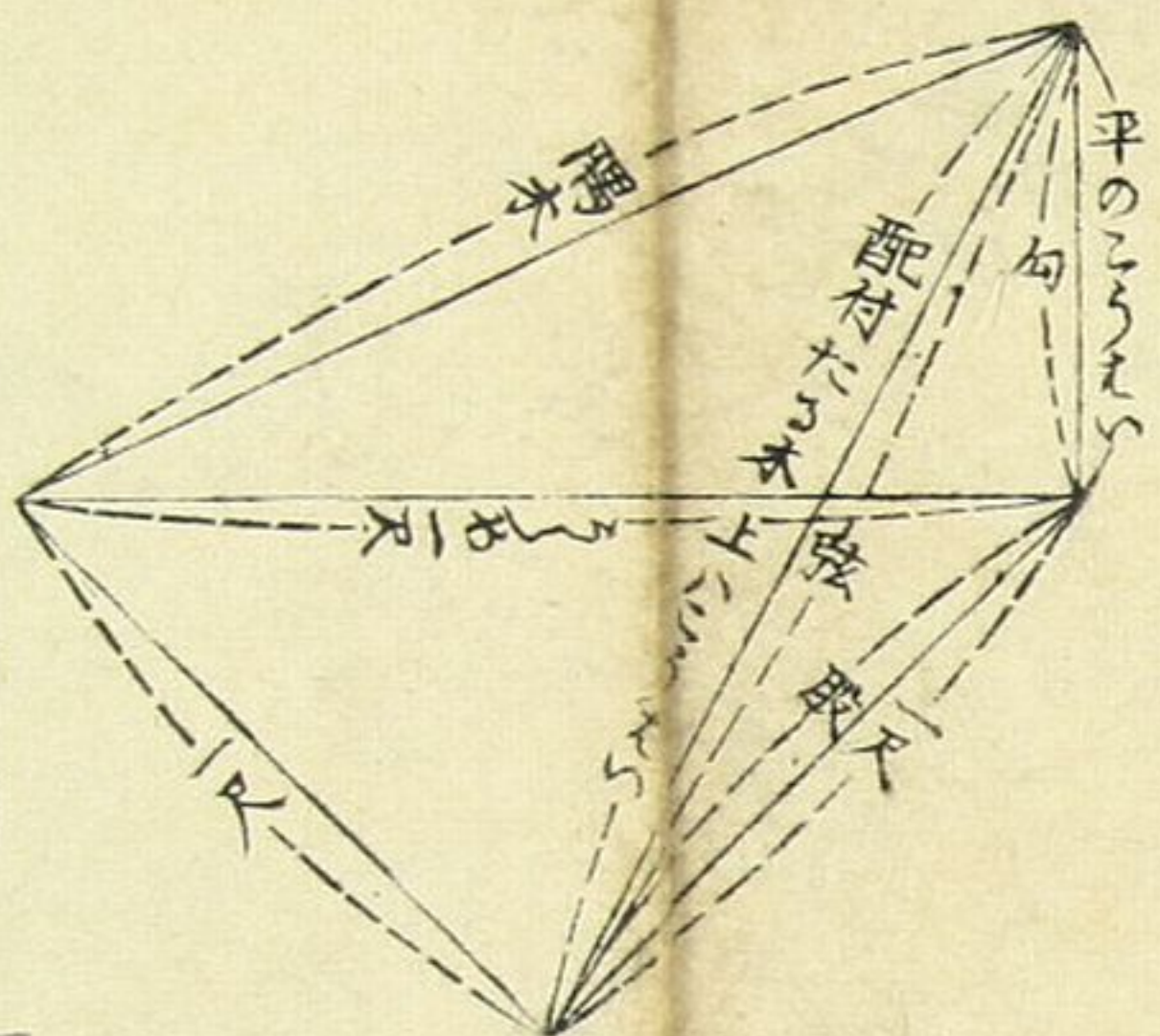
曲尺の裏尺



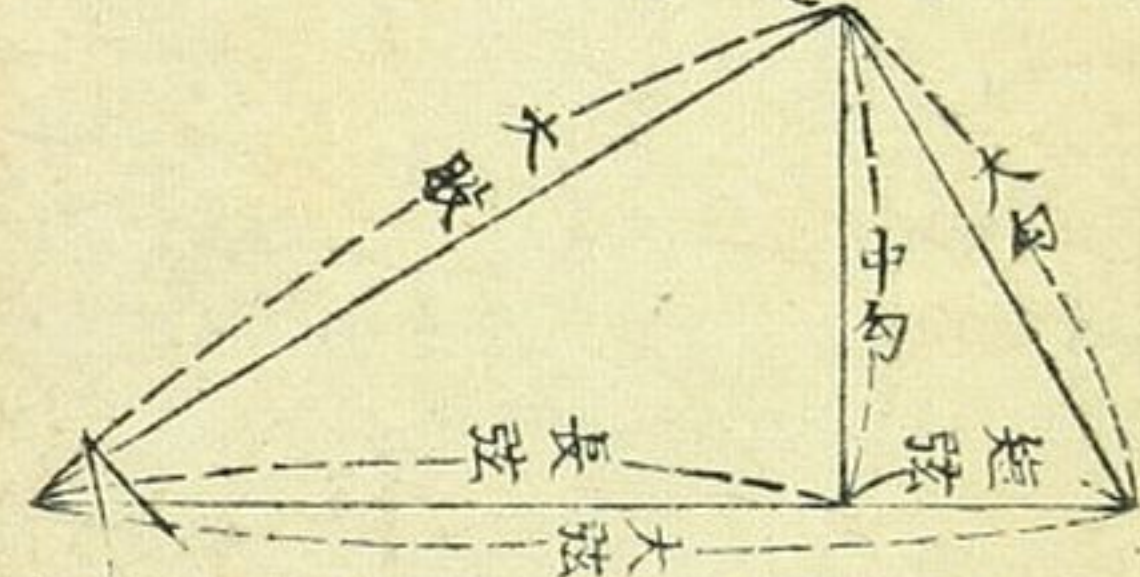
偶高配墨



配付橋上端高配墨



曲尺同矩



曲尺の同矩と云ふは、是と同ト云つたものと云ふは、上図の中勾と勾と長股と股と云ふは、大勾股の形あり又短股を勾と中勾と股として矩を四角と大勾と同ト云つたものと知る是を同矩といふなり

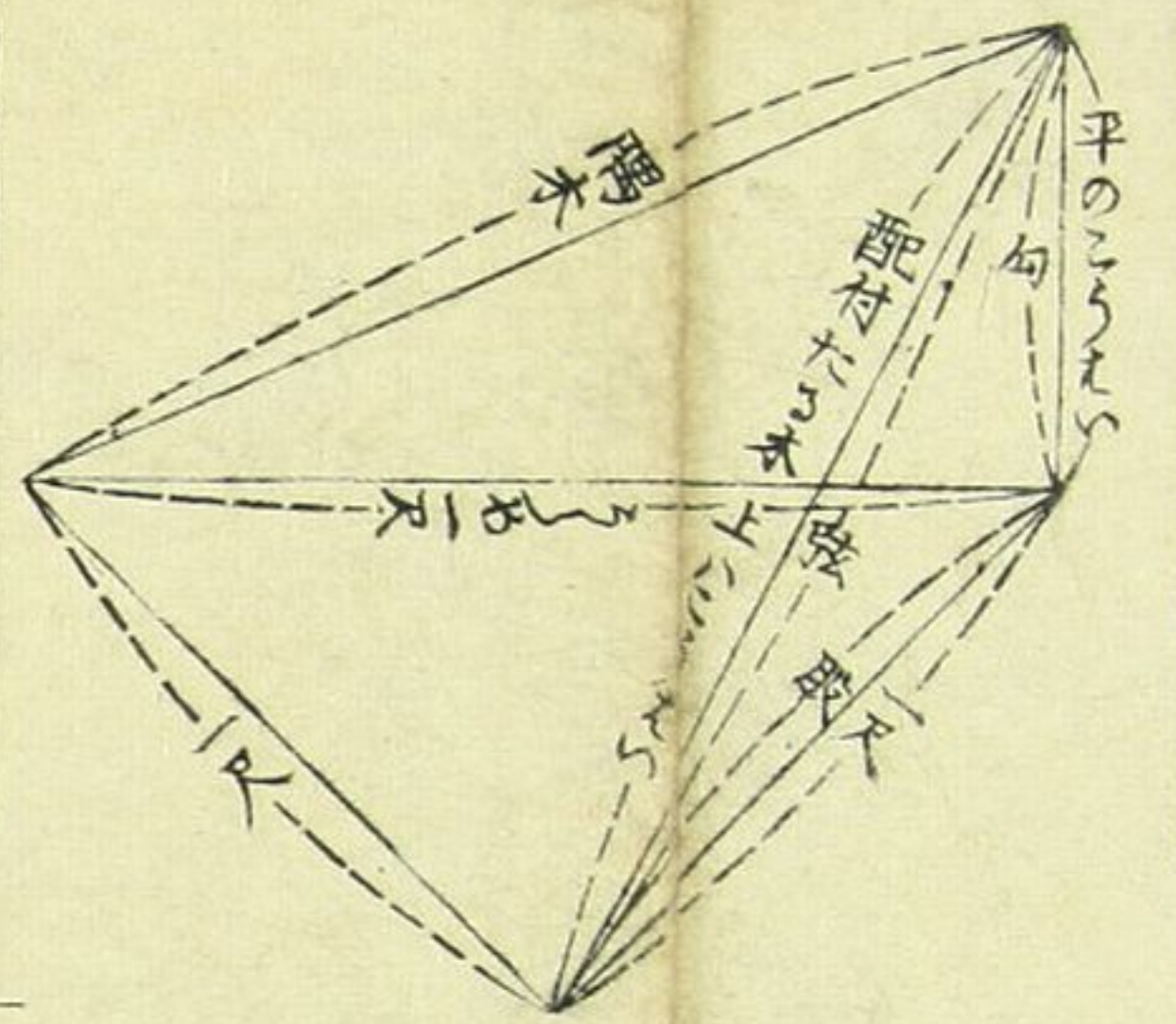
曲尺のうしろ上図の如く面一尺の方形を四角偶より偶へ墨をうけて其長を計る小曲尺一尺四寸一分四厘二毛余あり是を裏尺の一尺と云ふ

平の高配を以て偶のありえいを求むる術ハ先づうしろを以て平のこうえいを計り得る数表目小久偶の高配と知る又平の高配を勾と一うしろ一尺を股として矩を四角と云ふは、偶のありえいと同矩となるありの解みいやく上図の如く偶の形を四角勾股の形を見るよ大股小股一尺のうしろなり故に小勾の裏目ハ平のありえいと知るなり

平の高配を以て配付橋の上ハ高配を求むる術ハ先平のこうえいを以て矩を四角の形を以て配付たる木の上ハありえいと知るは、平の高配の弦あり又弦者一尺以上なるゆへ半一を用ひ

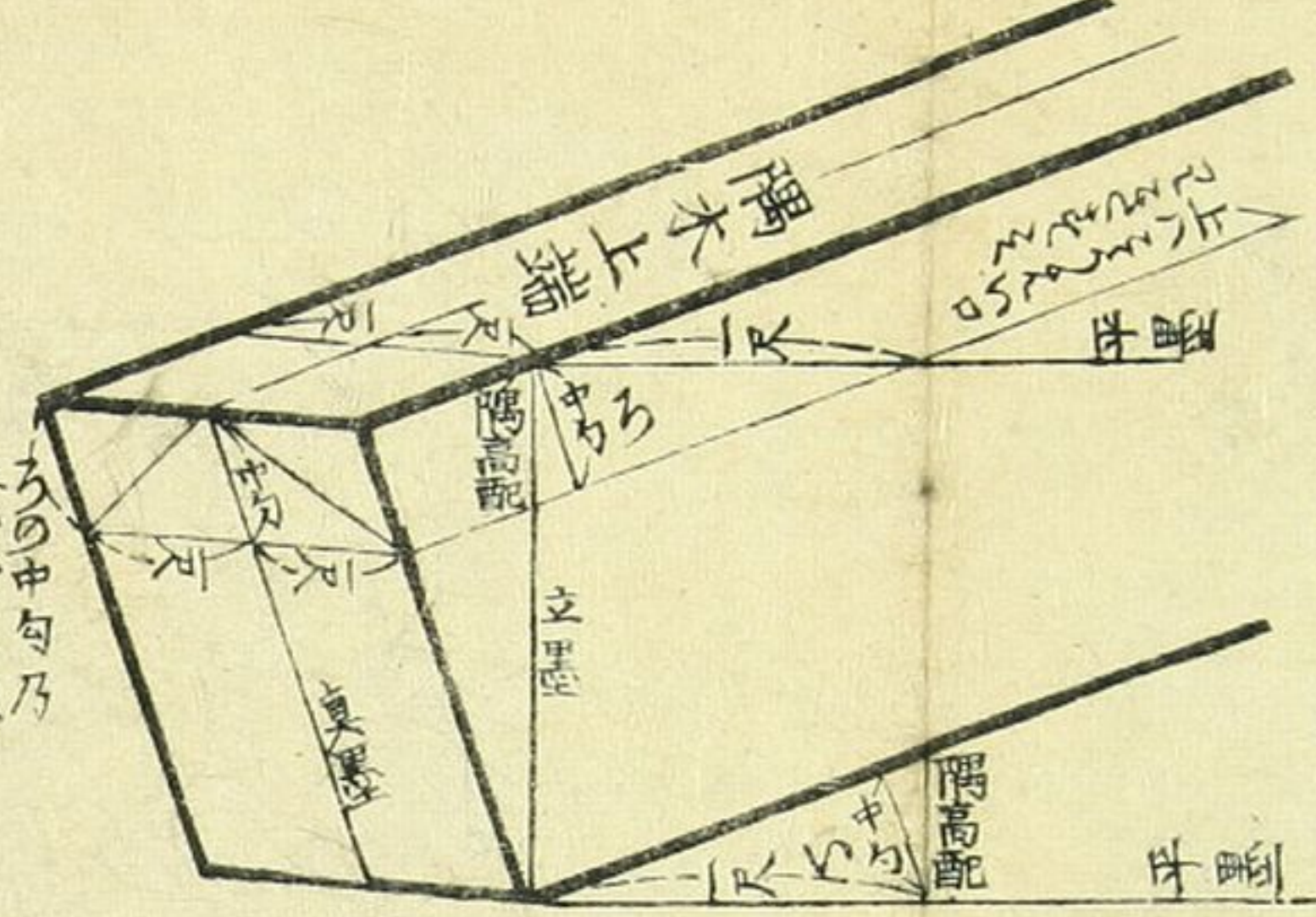
昭和二十七年
六月二十一日
受八

配付橋上端高配墨



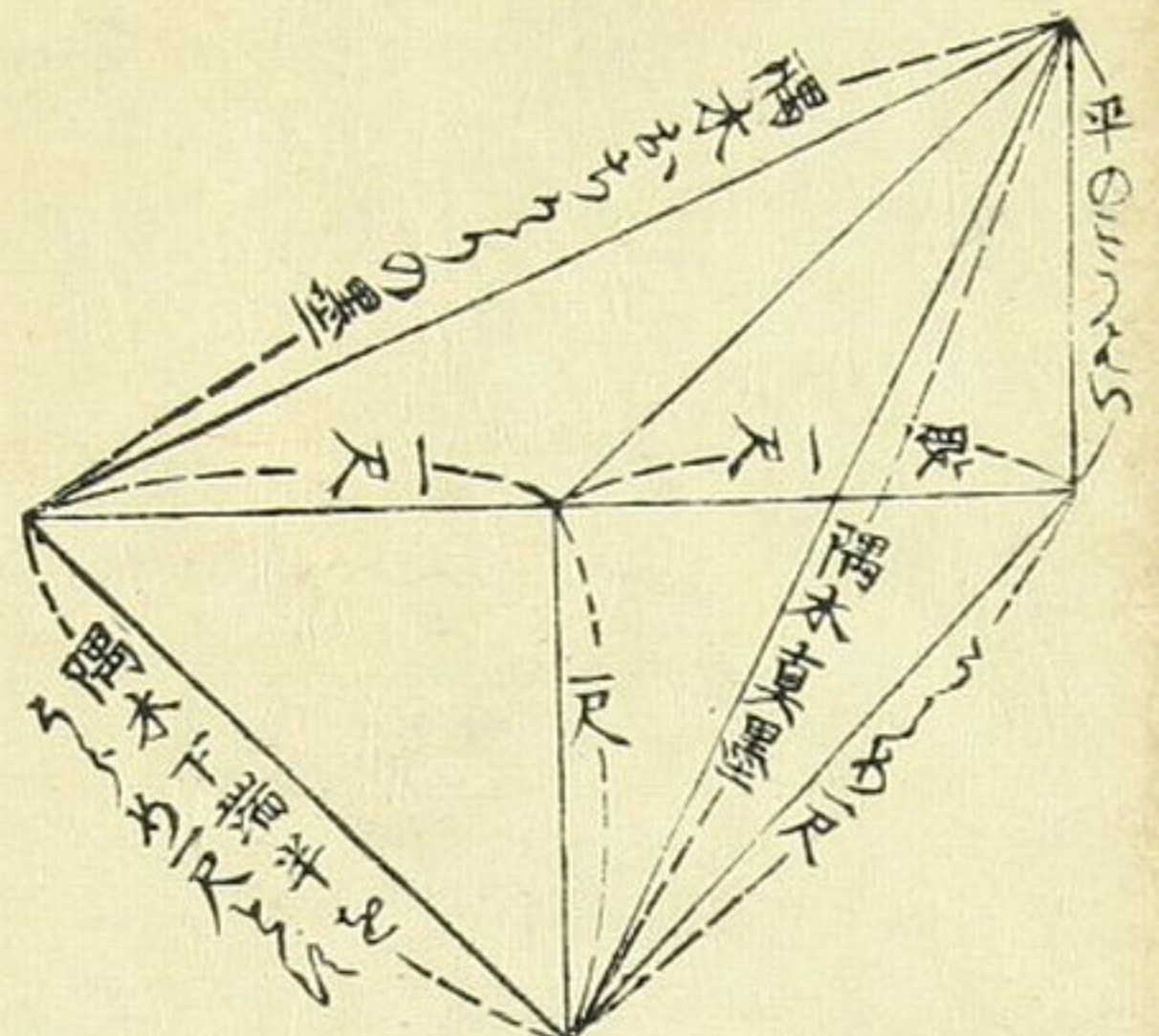
平の高配を以て配付橋の上端高配を
 求むる術ハ先平の高配のこうえいをして以て矩を
 図るに弦を以て配付たる木の上バあり
 図のこう平の高配の形を以て見ると配付橋の
 上端より平の高配の弦あり又弦者
 一尺以上なるもへ半一を以て用ひ

偶木上端高配墨



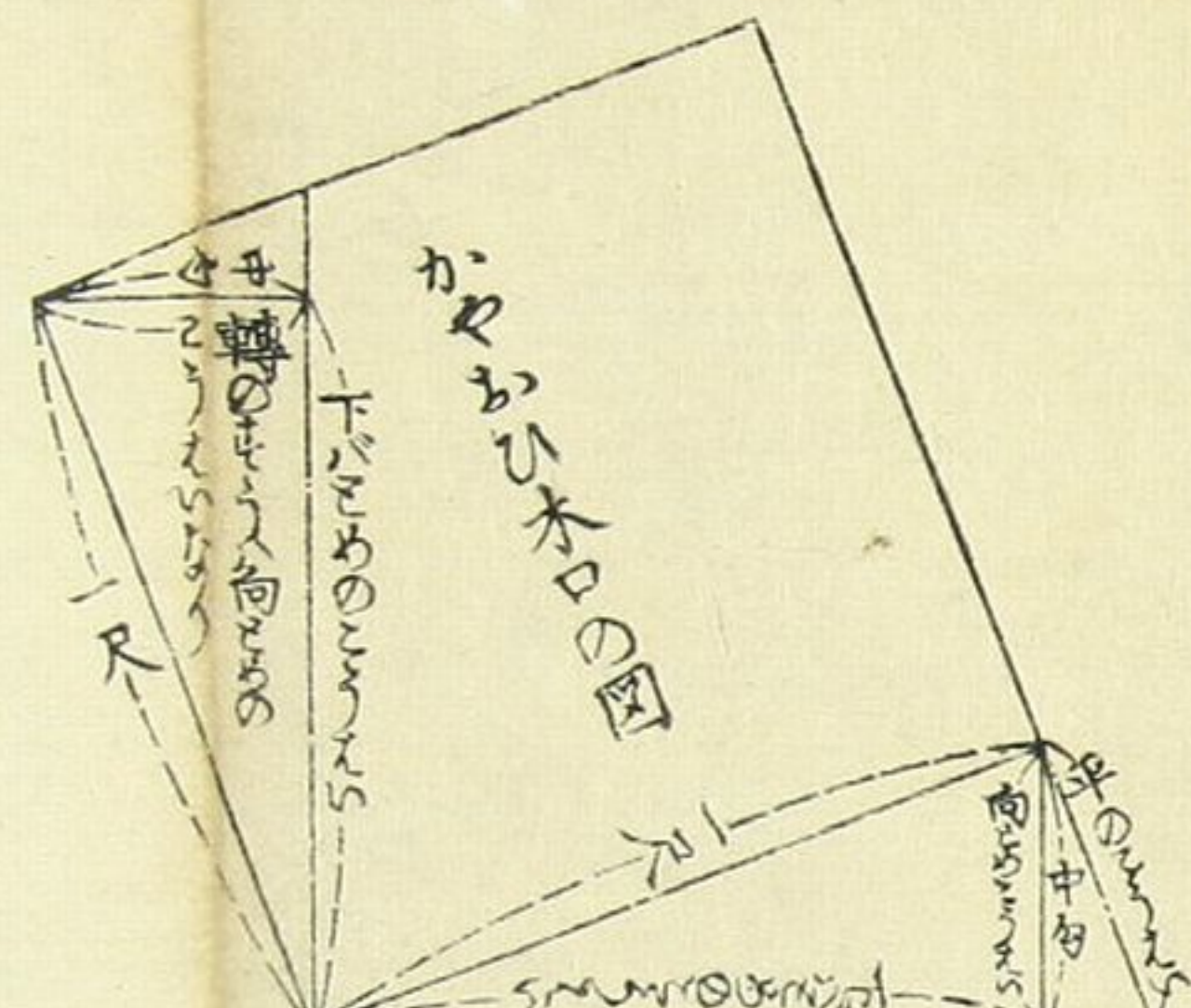
偶の高配を以て偶木上端の高配を
 求むる術ハ先偶の高配のこうえいをして以て矩を
 図るに弦を以て配付たる木の上端の
 上端より偶の高配の弦あり又弦者
 一尺以上なるもへ半一を以て用ひ
 墨と同矩と成也。○解ふに上図の
 如く偶のこうえいなる偶木を以て
 矩の端を二尺と見れば上端のこうえい墨を以て
 いろいろの矩を見るは同矩同数也又その
 中勾を偶木の木口より見るとは
 上端のこうえいと成なり故小中勾を
 以て上端高配と成なり

九折へ偶木落掛墨の高配

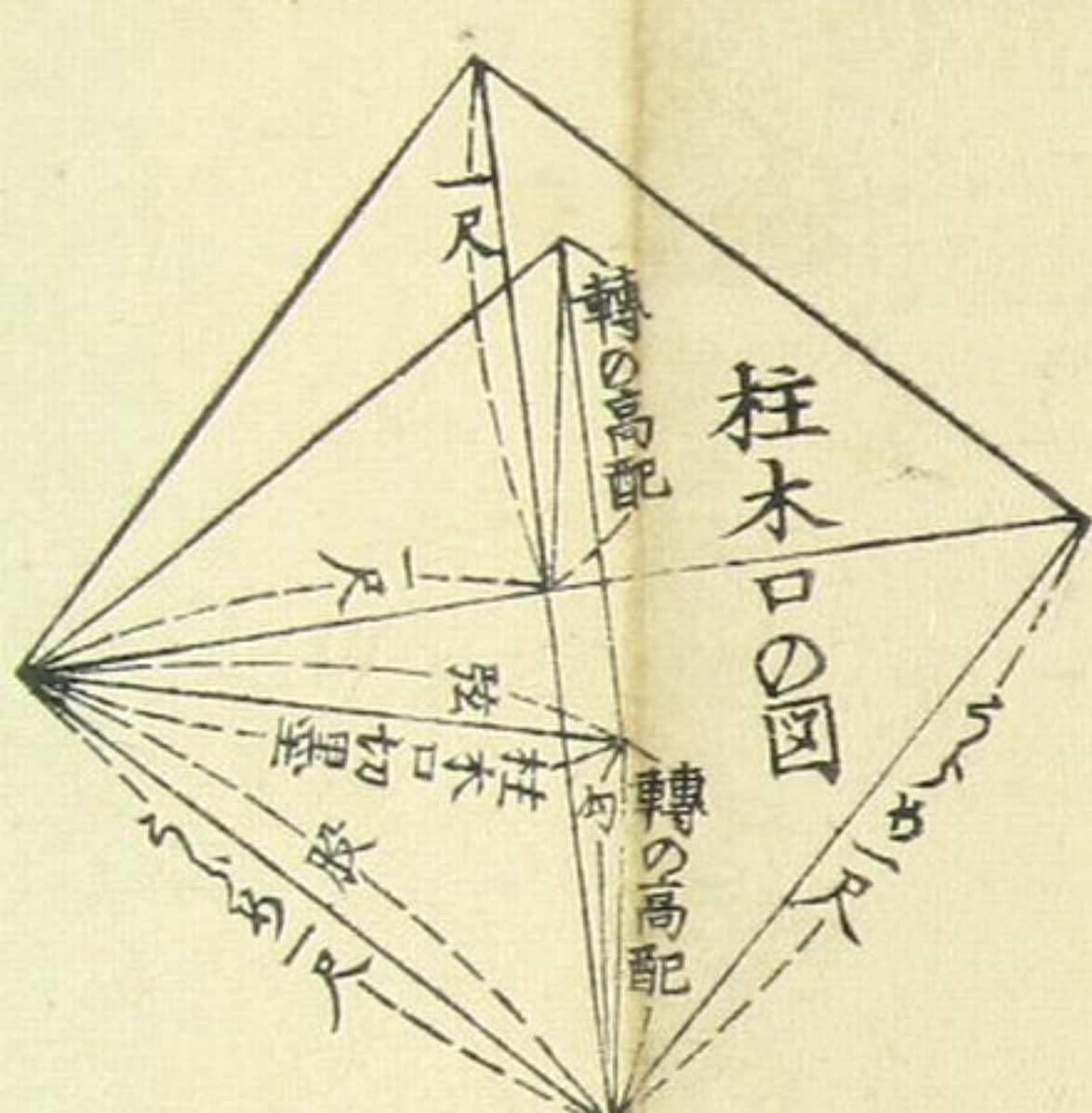


九折へ偶木落掛り墨の高配を求
 むる術ハ先平の高配を半一を以て偶木
 落掛り墨の高配と見れば又偶の高配を
 勾と見れば一尺を以て矩を以て
 是れハ先平の高配と同矩と成
 たり。○解ふに上図の如く偶木の
 下バ半を裏目一尺と見れば偶の形を以て
 偶木落掛り墨の高配を見るは
 平のこうえいの股一倍ハ先平の半高配を
 高配の股なりゆへ平の半高配を
 以ておちりり墨の高配と成なり

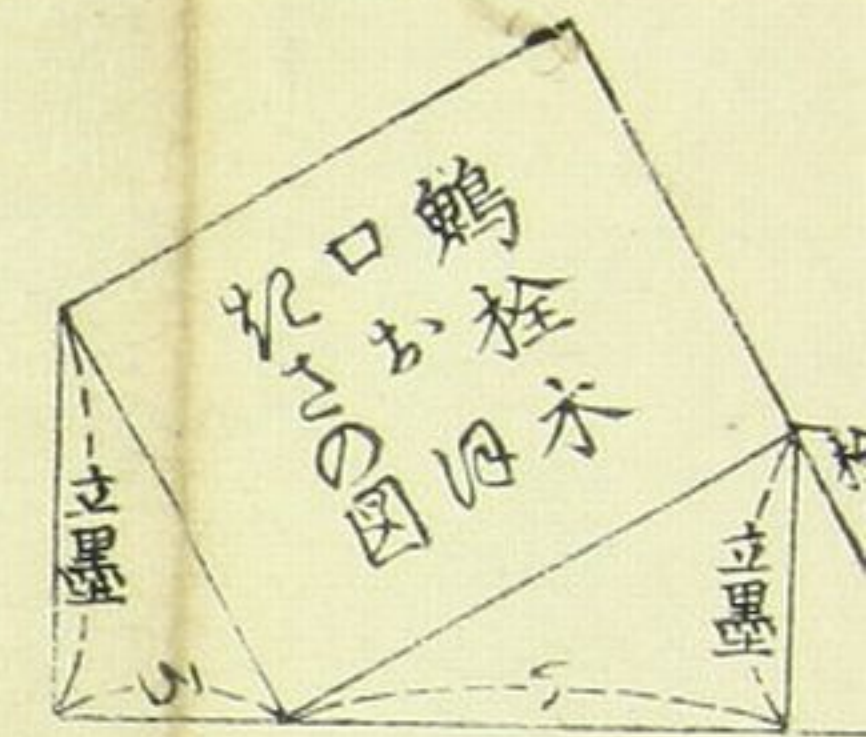
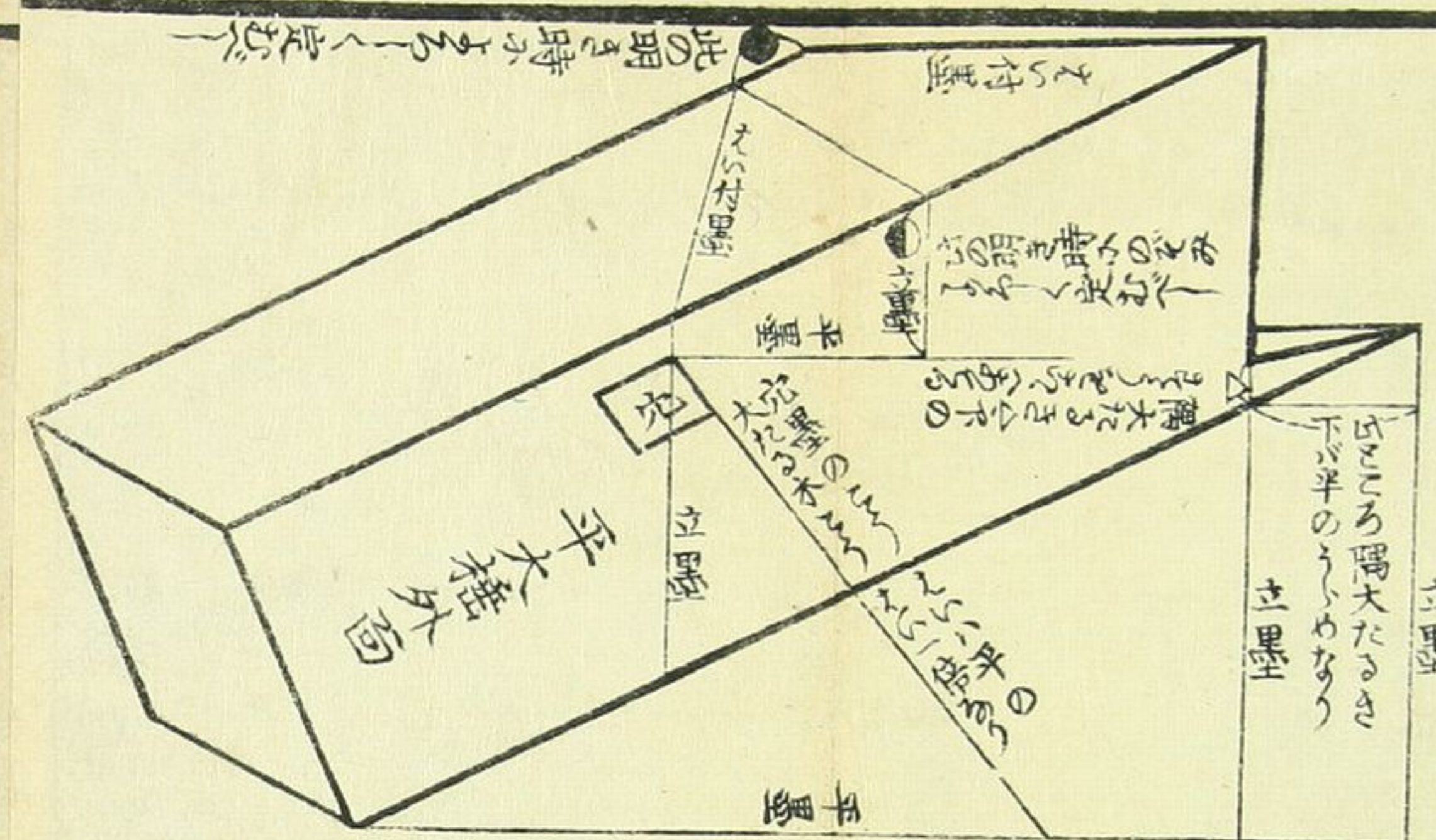
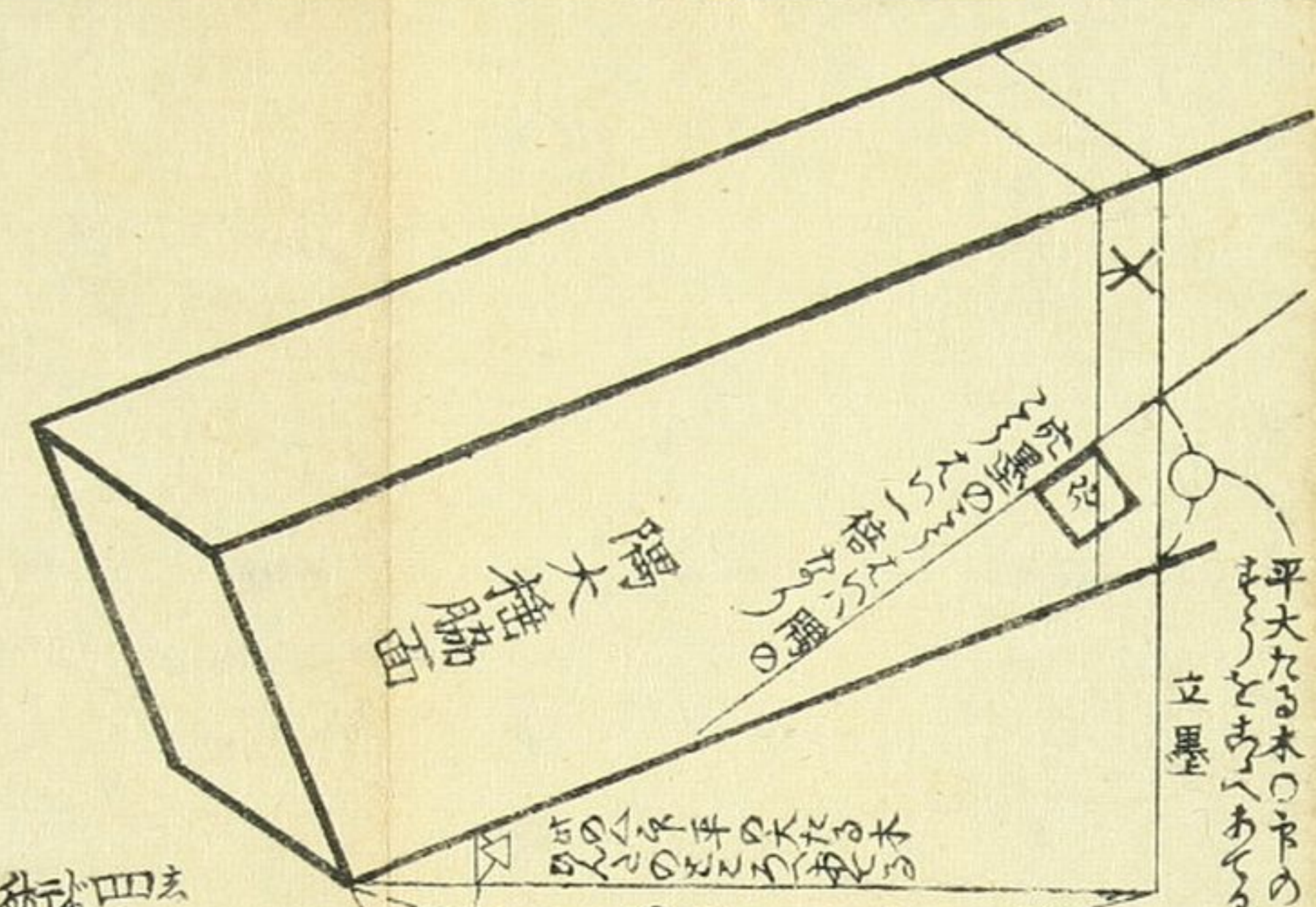
木負芽負隅向留
 下端留の高配墨



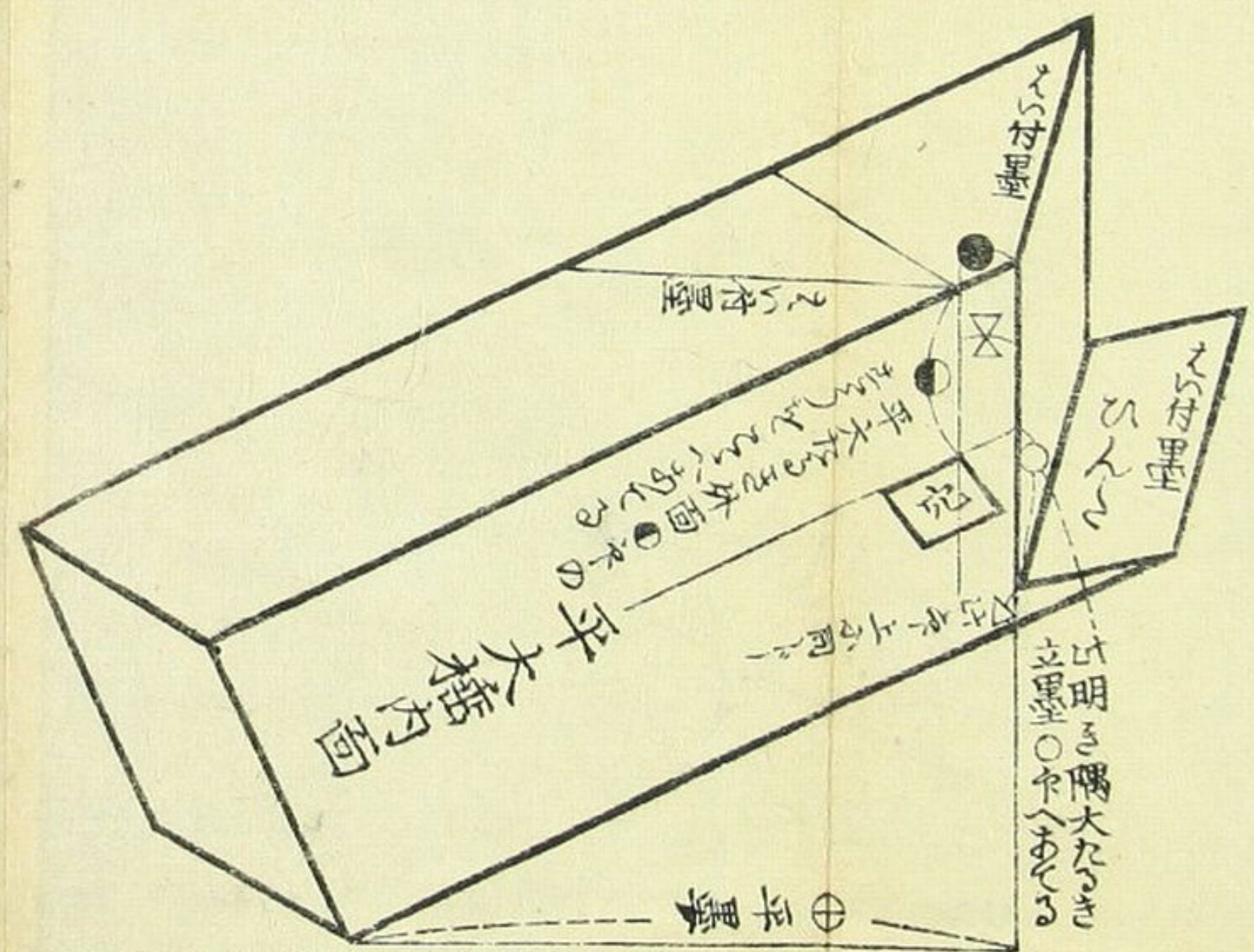
木負かやおひ平のこうえいをして
 隅向のこう高配并下端のこう高配を
 求むる術ハ先平の高配を以て矩を
 図るに弦を以て配付たる木の上バあり
 又長弦を以て下バのこう高配と知るは
 平の高配を以て勾と見れば弦を以て
 矩を以て矩を以て配付たる木の上バあり
 上図の如く平の高配のこうえいをして
 の木口を以て矩を以て配付たる木の上バあり
 見ると平の高配少あるは先平のこうえい
 の轉も少なり又平の高配あるは先平の



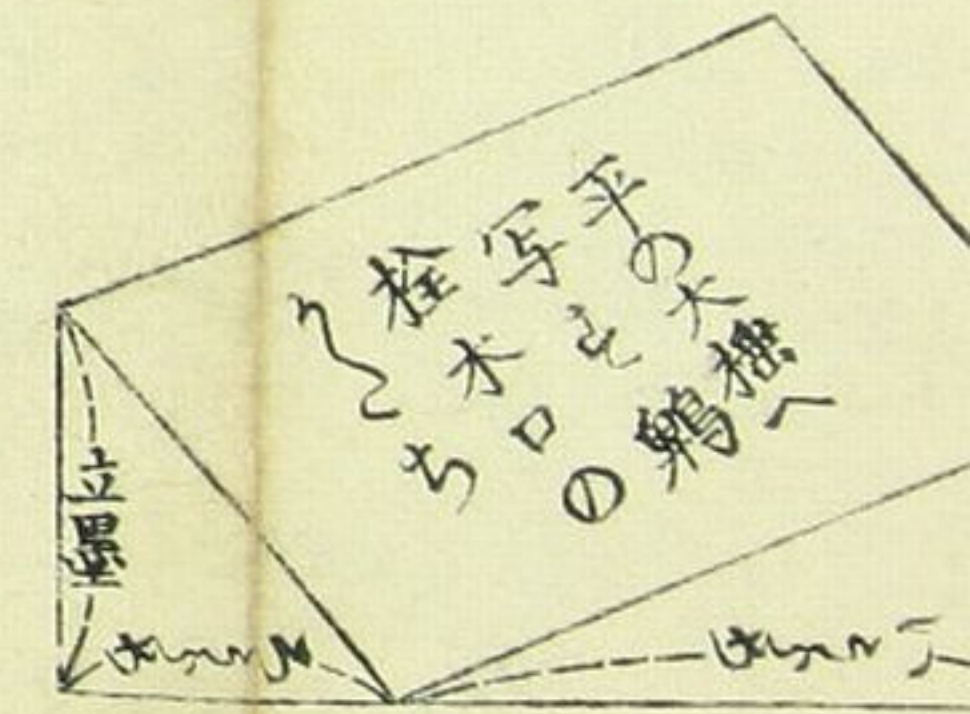
四方轉の墨



平大楯の内面と下の数をうらめりて計其敷を表目よか偶大楯の×下へあてると



平大楯の内面と下の数をうらめりて計其敷を表目よか偶大楯の×下へあてると



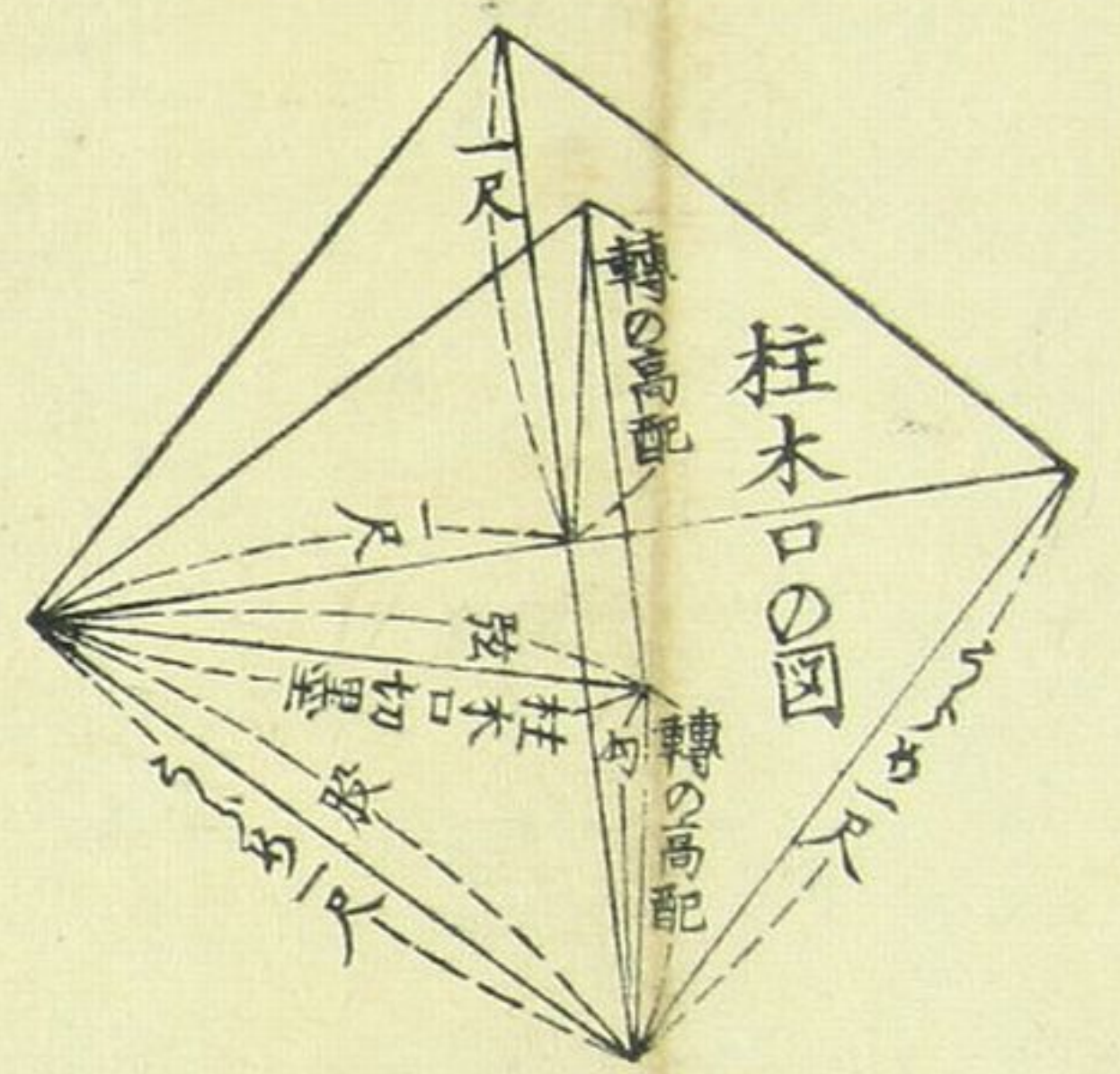
四方轉の柱根切墨の高配を求むる術ハ先轉のありたいを裏目あて計り得る敷表目よか柱根木口切墨の高配と知ると又轉の高配を勾こし裏目一尺を股として矩を四かくたひ切墨のありたいと同矩と成あり但しこゝろより以上のことをハちひのこゝろより目より柱根木口きり墨の高配と知れり○解は上図の如く柱の木口大きさを仮し裏目一尺四方の図がた又木口の切墨を四一切墨の高配を見よ轉の高配を勾となれハハハハハハ一尺股となる故小轉の高配をうらめりて

平大なる木の市の立墨をあらへる偶大なる木下の半

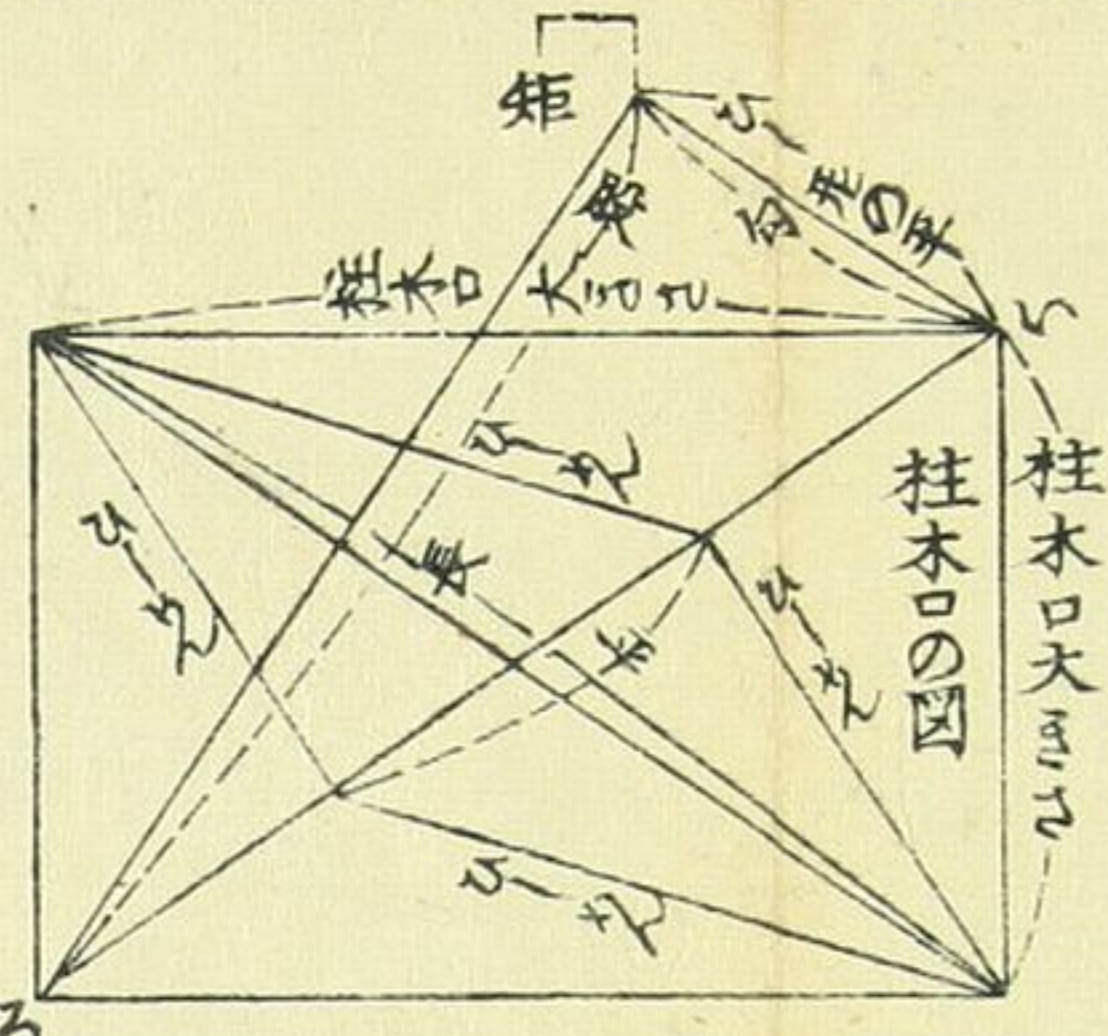
平大楯の内面と下の数をうらめりて計其敷を表目よか偶大楯の×下へあてると

平大楯の図

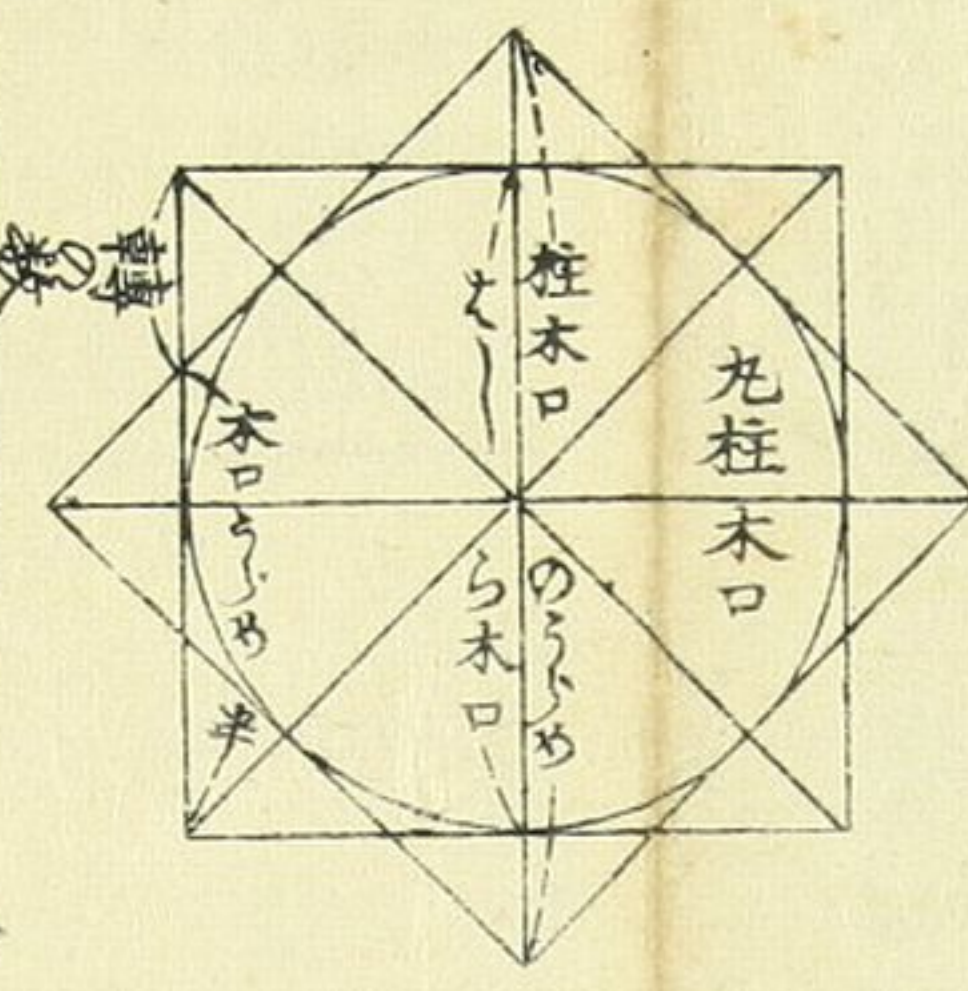
四方轉の墨



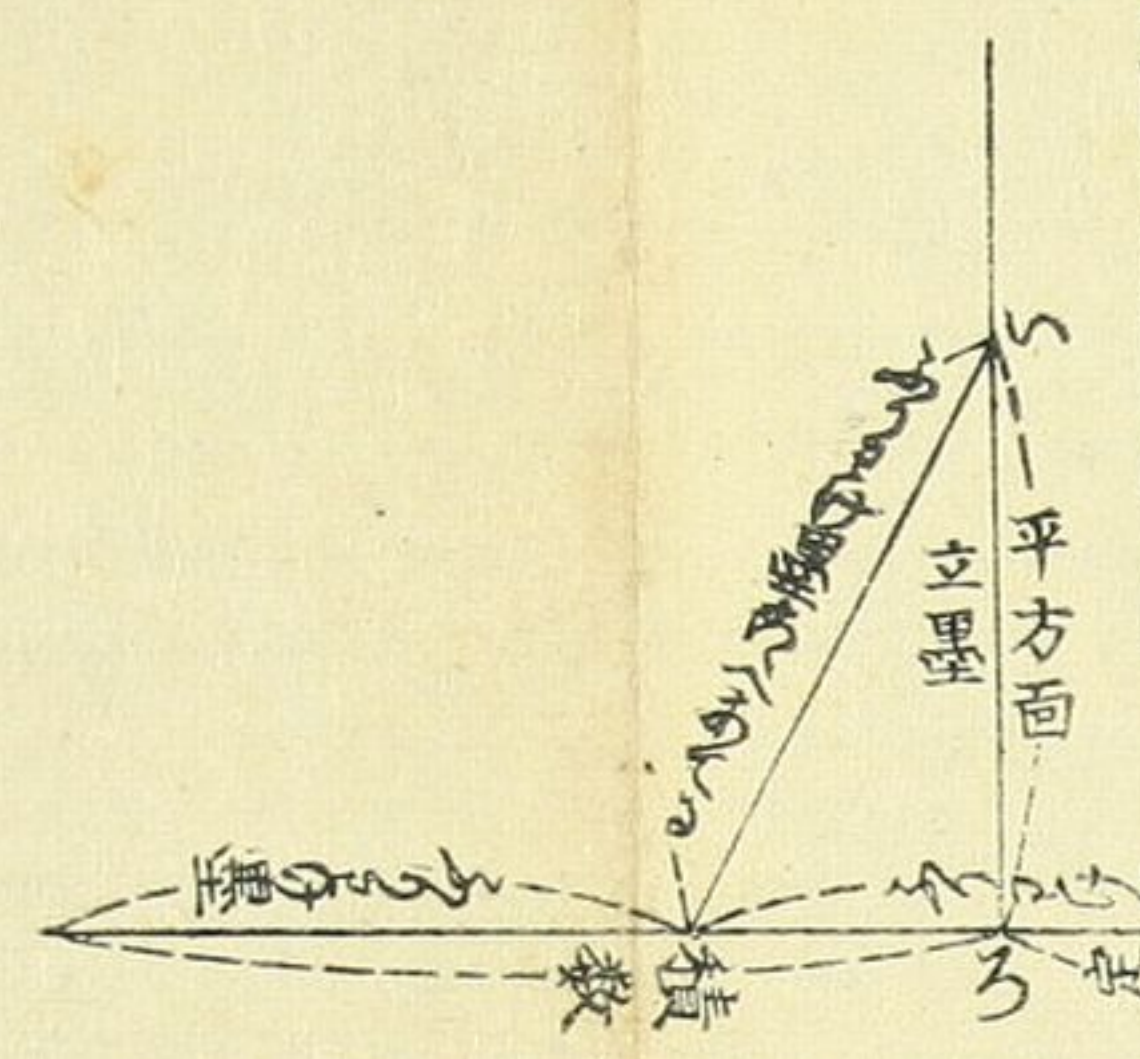
轉の柱木口椽形の前墨



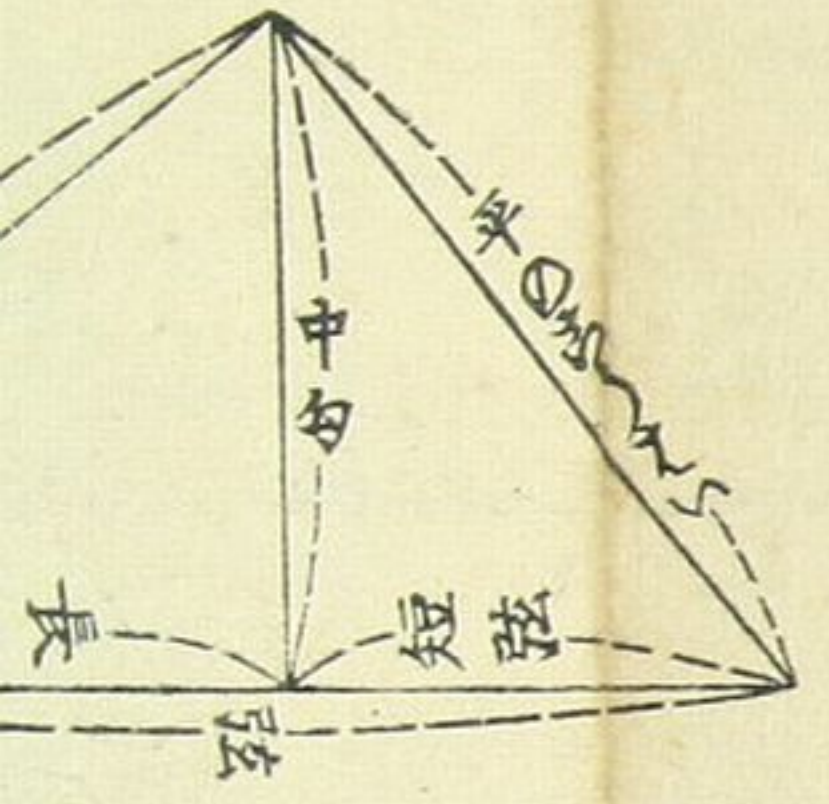
八中轉の墨



積を平方開く墨



平の高配を以て檐廻り各の高配を求むる墨



得る数表目より柱根木口切墨の高配と知る又轉の高配を勾ひ裏目一尺を股として矩を圍ぐは切墨のよりといふ同矩と成る但し目より柱根木口より墨の高配を解は日上の図の如く柱の木口大きさを後より裏目一尺四方の図がた又木口の切墨を圍ひ切墨の高配を見よ轉の高配を勾ひなるは一尺八股となる故に轉の高配をうら目より計り得る数表目より切墨のよりといふなり

四方轉柱の木口椽形の長平を求むる術は先上図の如く柱木口の大さを図画偶より偶墨をうけいりの偶を押へ轉のよりなるは矩を圍ぐは勾ひを計りむるは平といふ又偶より偶へうけいる墨を計り長と成るなり但し一尺八股より以上のものは股を以てひきめんの平と成るなり○解前と同略之

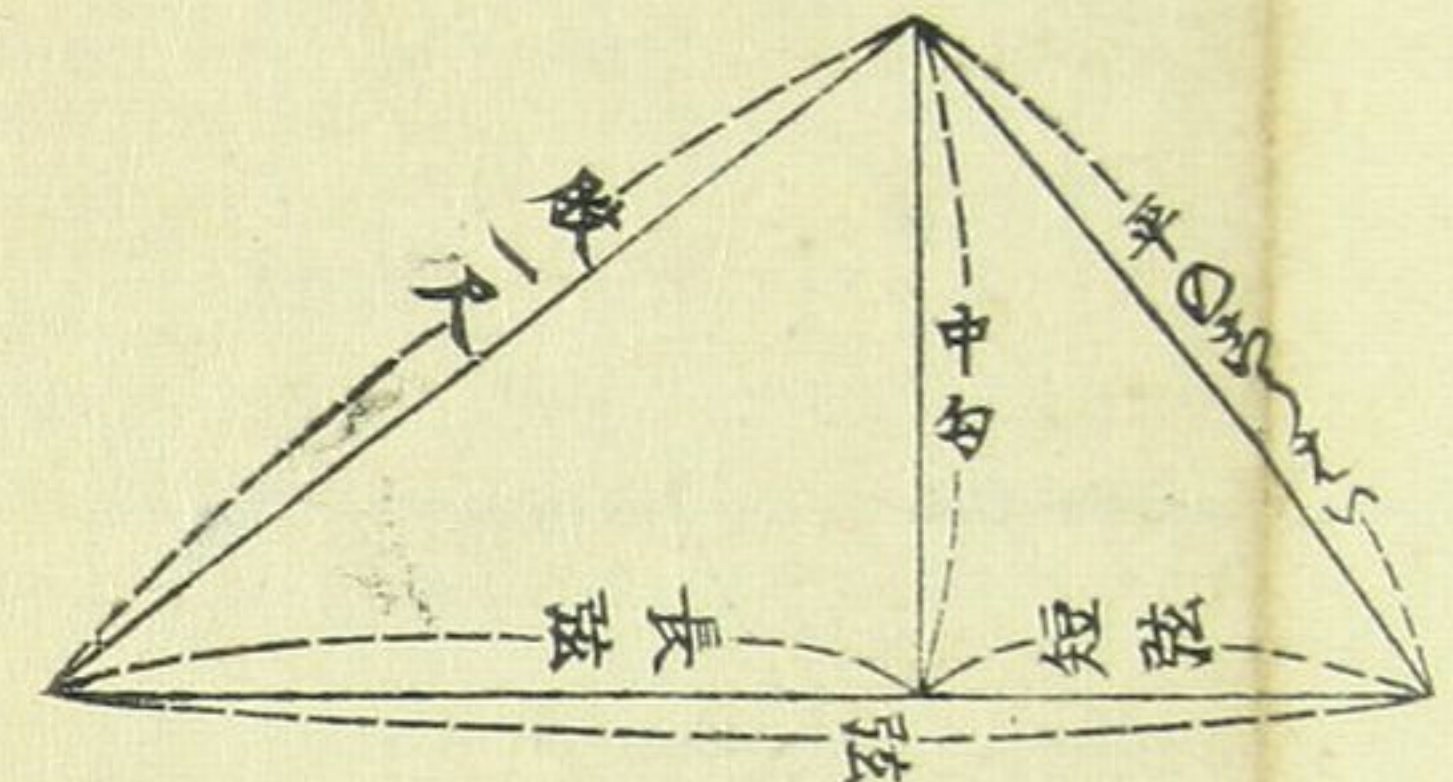
但し柱をひきめんは前より後木口切墨のうけやりの前理を推して知るべし

八中轉の数を求むる術は先柱の木口数のよりを半して柱木口数の内より引去り餘轉の数と知るなり上図解のど

曲尺を以て積を平方開く術は先積の数を定法一寸を加へ上図の如く平墨を引又積と定法一寸の間より立墨を引に扱平墨のよりをのこころよりうら目のよりを立墨へあていりの墨を計り平方面と知るなり○解は日積数は定法一寸をうけいる者はいろの墨をうけ合せる者と相同ト故にいろの数を以て平方面といふ又定法を一の数は定むる理ハ積数變ぜざるためなり

上図の如く平の高配を以て矩を圍ぐは檐廻り各の高配を求むる術は先うらめを以て平のよりを計り得る数表目より偶の高配と知る也弦を以て配附楯の上の高配と知る也うらめを以て中句を計り得る数表目より偶木上端高配と知るなり平の高配を半して九折へ偶木落掛墨のよりといふ知るなり

平の高配を以て檐廻り
各の高配を求むる墨



数と定むる理ハ積數變ぜざらためなり
上図の如く平の高配を以て矩を因りき
檐廻り各の高配を求むる術ハ先
うりめを以て平のありを計り得る
數表目久偶の高配と知る也
弦を以て配附楯の上高配と知る也
うりめを以て中勾を計り得數表目
久偶木上端高配と知るなり
平の高配を半して九折へ隅木落掛
墨のありをいと知るなり
中勾を以て久偶向苗の高配と
長弦を以て下端苗の高配と知る也
平高配のうりめを以て隅木脇面へ
寫す茅負向苗の高配と知る也
解前詳也

平高配の数を設けて檐廻り各の高配を挙る

平高配四寸

隅高配二寸八分二厘八毛余

配附楯上端高配一尺〇七分七厘〇余

隅木上端高配二寸六分二厘六毛余

九折へ隅木落掛高配二寸

茅負向留高配三寸七分一厘四毛余

同下端留高配九寸二分八厘五毛余

隅木の脇面へ寫す茅負向留高配五寸六分五厘六毛余

一扇楯の割り曲尺の術小定理なり時臨み考へ差略して楯割りをいさへべし

一今墨繩矩の術各高配と挙る然れども其物に臨み高配の墨を用ひて其墨を得ることあり時宜に依て考ふべし

一建物修復の節水盛の術ハ先水盛盤を以て水を盛り

平準の繩を張り各柱へ印但此下なり見高形杭を諸方の取合を篤と考へ上板押あるひハ臺輪飛貫桁等を時

宜小より上の押へし下ハ平準の笈印をおさへ

押への柱を定め但取合なき場所ハ差附定木を造り是を

以て柱毎に差附の墨を但星高低を調へ扱地形

の不平あるひハ有りし柱の根捌等を改り平準小

なすひ土臺石口を引と居かとり又地形四隅は格別

の高配あると見ハ平準小くは土臺を居へ柱の

根捌小もいさへ但割土臺附土臺等より揚方見當形杭笈

上端の差付定木を造り但平準の繩を用ひて柱石上より

準下の長短を計り柱根繼敷盤いさへ

なすひ土臺石口を引と居かとり又地形四隅は格別の高低あると見へ平準ふらふらば土臺を居へ柱の根捌くもいさむ
但割土臺附土臺等より揚方見當形杭笈
 上端の差付定木と造り
但平準の繩を用ひて柱石上より柱毎に平準杖等造の根定木を揚
 準下の長短を計り柱根繼敷盤いさむ
附云

一上の押へり土臺上端までの長さ柱を押しと定め定木を造り是を以て柱毎に長さを定め根繼敷盤いさむ平準なすひ土臺を居るも有りといへども古土臺杯より狂ひ有り又ハ揚方道具等混雜いさむ土臺平居がささふともあるべし依て多くハ右の仕法用ひがさし

一出合場所取合柱水盛いさむ下り付突合念を入
各持場違ひのあとゆえささしにより押し
 柱區のあと有り依り下り付突合念がさしこと多し相互に打合するあと肝要也
但各打合のえはかりをす所よ

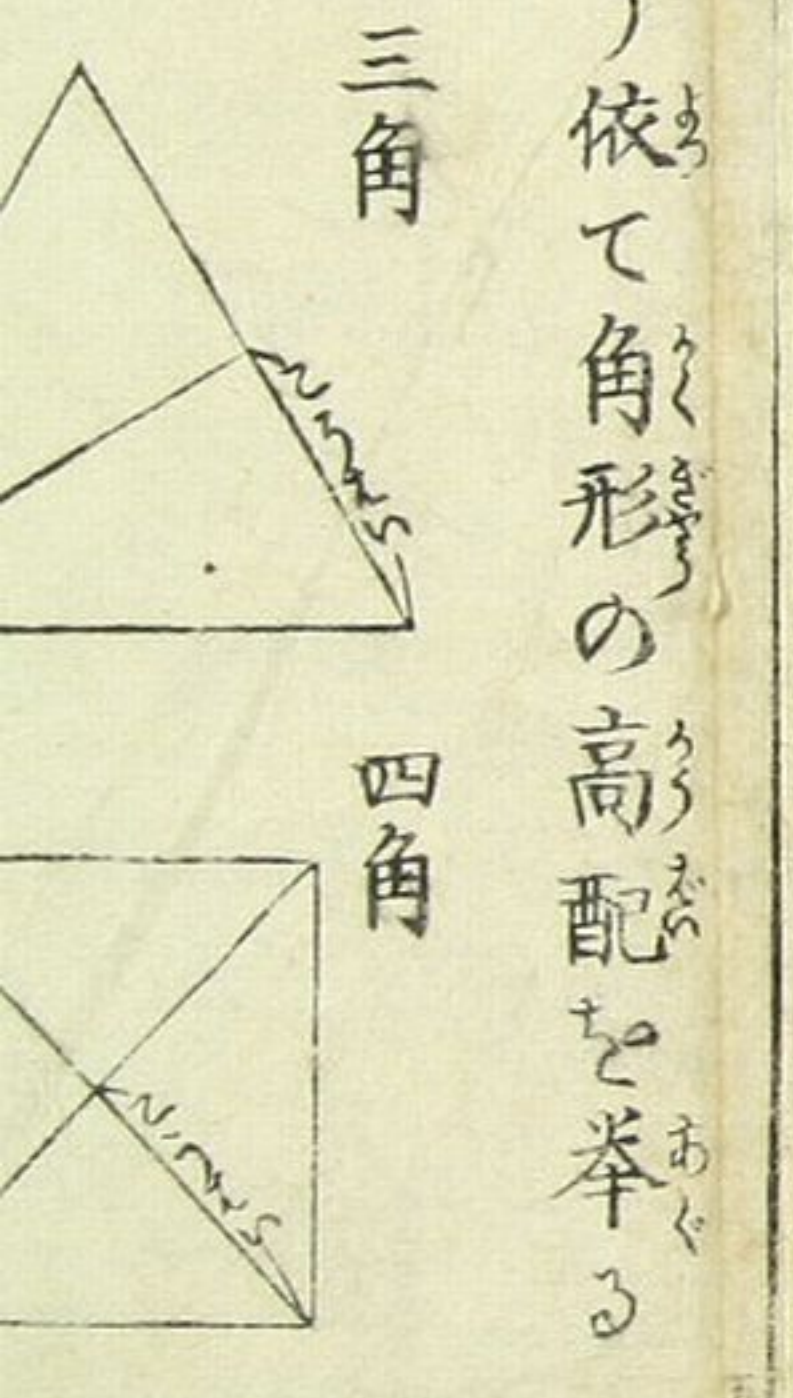
一大ひなる建物揚方いさし請置柱根繼敷盤出來のうへ踏せ方いさむ時ハ先さやうさの厚さを揃へ柱毎に飼くさめ落附いさむところより柱根の高下を再調べ其上踏せ方いさむべし

一木匠三四五の矩を用ゆることあり三四五の矩而已みて八不辨なるあと有り依て爰に勾股弦不盡なき数を挙る

勾級	股級	弦級
三寸	四寸	五寸
五寸	一十二寸	一十三寸
八寸	一十五寸	一十七寸
七寸	二十四寸	二十五寸
二十〇寸	二十一寸	二十九寸
一十二寸	三十五寸	三十七寸
九寸	四十〇寸	四十一寸
二十八寸	四十九寸	五十三寸
一十一寸	六十〇寸	六十一寸
一十六寸	六十三寸	六十五寸

餘略之

角	三角高配	四角同	五角同	六角同
三	五寸七三六〇	一尺	七寸二六五五二	五寸七三三六〇
四	五寸七三三六〇	一尺	七寸二六五五二	五寸七三三六〇
五	五寸七三三六〇	一尺	七寸二六五五二	五寸七三三六〇
六	五寸七三三六〇	一尺	七寸二六五五二	五寸七三三六〇

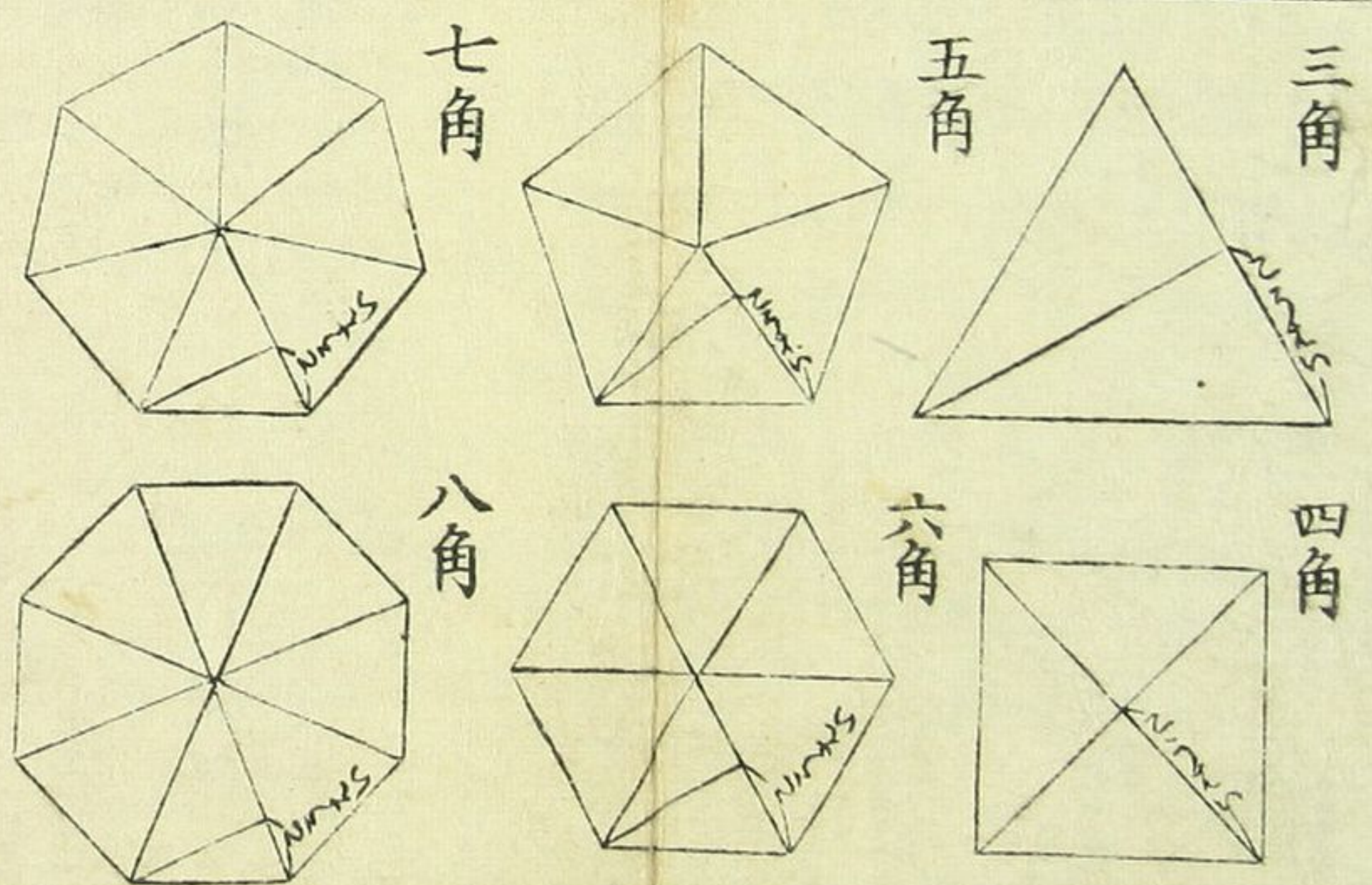


角形を造るあと有り依て角形の高配を挙る

一十二寸	三十五寸	三十七寸
九寸	四十寸	四十一寸
二十八寸	四十九寸	五十三寸
一十一寸	六十寸	六十一寸
一十六寸	六十三寸	六十五寸
餘略之		

角形を造るあとあり依て角形の高配を挙る

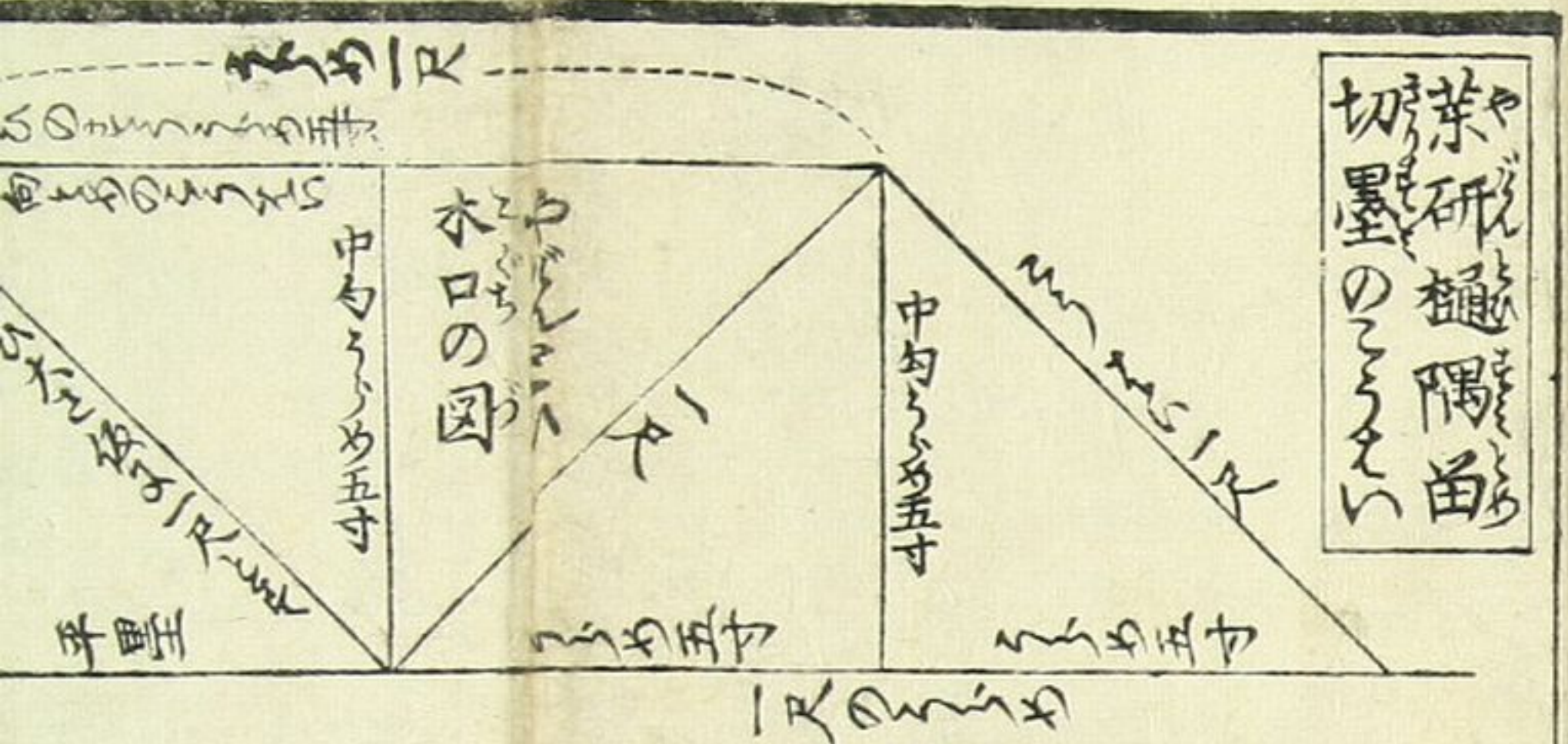
角	形	高	配	表
三角	高配	五寸七三七六〇	一尺	餘略之
四角	同	七寸二六五五二	同	同
五角	同	五寸七七三六〇	同	同
六角	同	四寸八一五七四	同	同
七角	同	四寸一四二一五	同	同
八角	同	三寸六三九五九	同	同
九角	同	三寸二四九一九	同	同
十角	同	二寸九三六二七	同	同
十一角	同	二寸六七八四一	同	同
十二角	同	二寸四六四七九	同	同
十三角	同	二寸二八二四三	同	同
十四角	同	二寸一五五五七	同	同
十五角	同	一寸九八九一四	同	同
十六角	同	一寸八六九三二	同	同
十七角	同	一寸七六三二六	同	同
十八角	同	一寸六六八三七	同	同
十九角	同	一寸五八三八四	同	同
二十角	同	一寸五八三八四	同	同



往古より矩術の書刻数本ありといへども未だ真理を述ぶる
 を見む故に今数理を推し解義をなす真の矩術を施し
 初学木匠の一助と凡僅く帖子といへども墨繩矩術の定則
 此書に盡せり

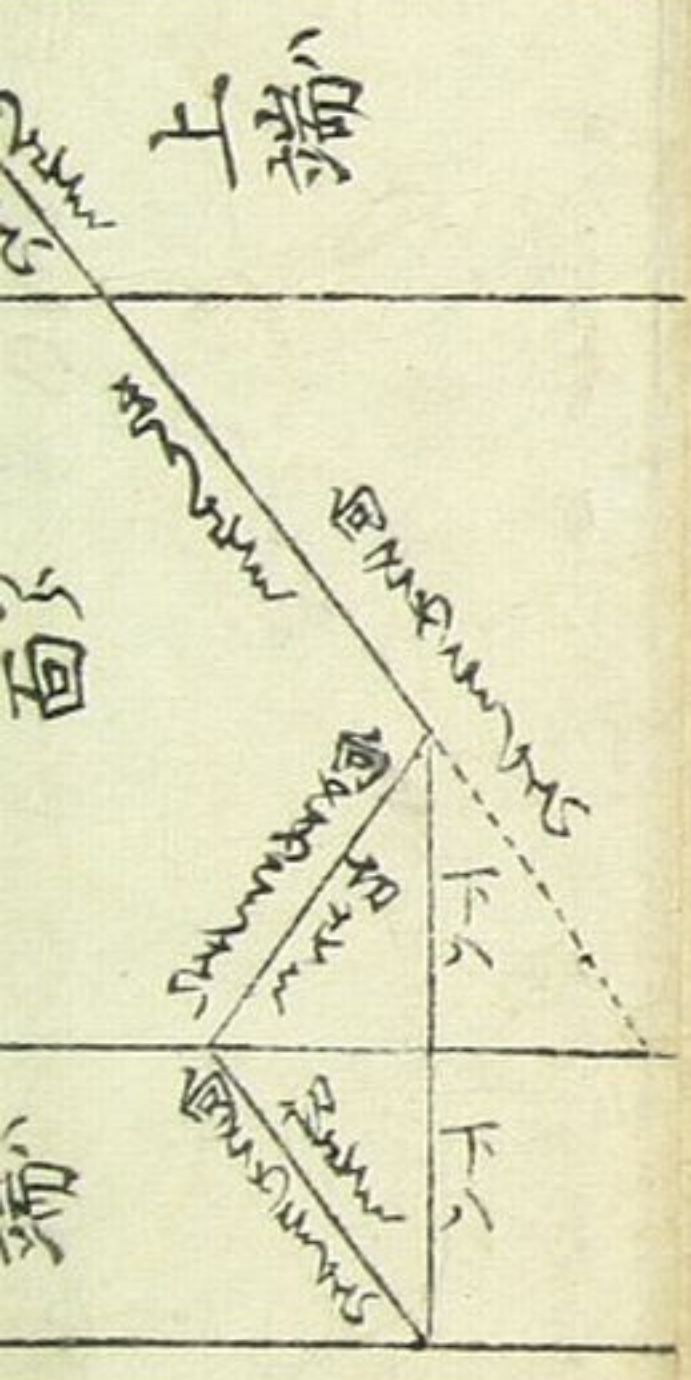
天保四年癸巳夏四月

平内安房編



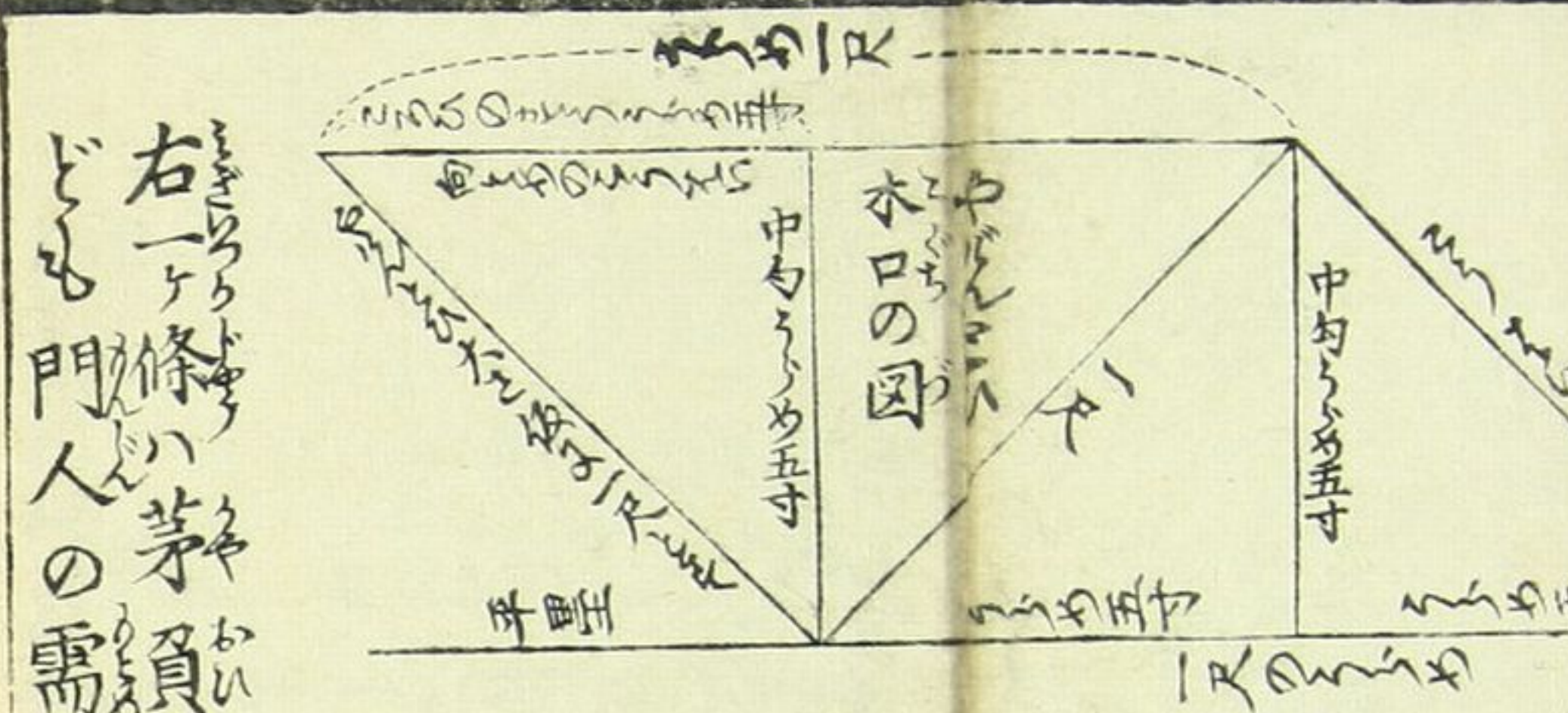
茶研 隅苗
 切墨のこうせい

やぐんとい隅苗切墨のこうせいといハ
 かやあひ隅苗切墨のこうせいといと理全ク
 同し上図解の如し依てうらち五寸を隅
 苗のこうせいとい一尺を交さうらち五寸を
 隅苗の切墨と知るわらうらち五寸は
 勾とらうらち五寸を交して矩を四
 角とて墨のこうせいは左図の
 成ありて墨のこうせいは左図の



三都

寺町通松原下ル
 心齋橋安堂寺町
 勝村治右衛門
 秋田屋太右衛門
 中橋廣小路町
 西宮彌兵衛
 日本橋通壹町目
 須原屋茂兵衛版



このこころと同一と解といへども門人の需又應とて舉之

一尺を父とて一尺を母とて

隅切の切墨と知るは又五寸は

勾と一尺を父とて一尺を母とて

このこころと同一と解といへども門人の需又應とて舉之

一尺を父とて一尺を母とて

隅切の切墨と知るは又五寸は

勾と一尺を父とて一尺を母とて

